

11-1 看護学科

1 教育理念と人材育成の目的

本学の教育理念である実学を重視する建学の精神と、医療保健科学部の医療における職業人としての専門知識や技能に加えて、豊かな人間性と社会性を備え、多職種連携に柔軟に対応できる高度な人材を育成するという教育目的を基盤とする。本学科は、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有する看護師としての高度専門化に対応した看護実践能力を有し、生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献でき、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームにおいてリーダー的役割が担える人材を育成する。

このため、看護学科における人材育成の目的は、様々な健康状態にある人々とかかわることのできる専門的知識・技術を修得し、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につけるとともに、柔軟に社会や時代の変化に対応でき、多職種と協働し包括ケアのリーダー的な役割を担い、グローバル化の進展や医療のデジタル化と関連するテクノロジーの進化に対応できる能力を有した人材を輩出することである。

2 3つのポリシー

(1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科は、履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（看護学）」の学位を授与します。

- ・健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。（知識・技能）
- ・地域で暮らす人々の健康や生活を支援するための、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる。（知識・技能）
- ・看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現）
- ・看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求力・問題解決能力を有している。（思考・判断・表現）
- ・医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）
- ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。（関心・意欲・態度）

(2) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・看護学科は、看護師に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成します。
- ・体系的に講義・演習科目を配置したのち集大成として実習科目を配置します。
- ・看護師国家試験受験資格を得ることができます。

① 教育内容

（知識・技能）

- ・看護に必要な、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を育成するために「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護論」「看護の統合と実践」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」の科目群を配置する。
- ・看護師としての実践能力を育成するために「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護論」「看護の統合と実践」の科目群を配置する。
- ・保健医療福祉における多職種連携能力を育成するため、その重要性が理解できるように「地域包括ケアシステム論」「保健医療福祉行政論」を配置する。また、他学科との合同科目である「チーム医療概論」を配置する。
- ・ICTや電子カルテが活用できるように情報処理科目を配置する。

（思考・判断・表現）

- ・文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を育成するために教養科目の人文系科目群、教養科目の理工系科目群を配置する。
- ・看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求力・問題解決能力を育成するために、「臨地実習」の科目群

および「看護過程論」、各看護領域における看護学の展開に関する科目を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感をもつことができるために「看護基礎講座」「医療概論」「看護倫理」、教養科目の「生活と社会環境」「現代医療と福祉・介護」、およびキャリア形成関連科目を配置する。
- ・グローバル化に対応し国際的視野を育成するため、外国語を用いて読み、書き、話すこと、看護の専門性を生かして国際貢献に関心が持てるように、「国際看護学」「医療英語」「看護学英語文献講読」、および教養科目の語学系科目群および研修を主体とした総合領域の科目群を配置する。
- ・生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できるようにするために看護研究に関する科目を配置する。
- ・初年次教育科目である「総合教養講座」においてSDGsを学ぶことにより、大学における学修内容をSDGsの視点で考えることができる態度を養う。

② 教育方法

- ・以下の能力を育成するために全ての科目でアクティブラーニングを活用する。
 - a 他者の意見を取り入れながら思考を深めた臨床判断や看護過程の展開能力
 - b 看護の対象を理解しようと素直に努力できる力
 - c コミュニケーション能力
 - d 学習の必要性を自覚し主体的に取り組める力
- ・人々の健康課題解決のために看護技術を活用できるように、紙上事例などシミュレーション教育を導入する。
- ・看護の対象である人々に真摯に向き合い理解することができるように、当事者の講話を聴く機会を設ける。
- ・看護の実践がイメージできるように、看護実践者が講義に参加できる機会を設ける。
- ・看護の専門知識を修得するため、対象者に必要な看護実践ができるように多様な実習施設を配置する。

③ 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

(3) 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、以下の能力のある人材を求めます。

(知識・技能)

- ・基礎学力を有すると共に、他者の話を傾聴し良好な人間関係を形成できるコミュニケーション能力がある人。

(思考・判断・表現)

- ・グローバルな視点を持ち、多様な価値観を認める柔軟性がある人。
- ・柔軟に社会の変化に対応し、自ら課題を見つけ探究する能力がある人。
- ・科学的思考力と論理的思考力の基礎を身につけている人。

(関心・意欲・態度)

- ・学校生活あるいは社会の中で責任ある行動をとる努力ができる人。
- ・人々を尊重し、社会的規範を守り礼儀正しく人と接することができる人。
- ・看護を学ぶための学習に意欲的で、看護職への志望動機が明確である人。
- ・学習習慣が身につけており、自己管理ができる人。
- ・自身の行動を振り返り、自分を高め続けようとする姿勢が身につけている人。

3 教育課程の構成と概要

上記目的を達成するために看護学科の教育課程は、①教養科目、②専門基礎科目、③専門科目によって構成されている。

(1) 教養科目

「教養科目」は、人間と文化、社会と制度、自然と科学、外国語、スポーツと健康、総合領域の6分野から構成されている。1年次にほぼ必要単位を履修し、多面的、文理横断的な視点から理解を深めるための基盤づくりとしている。外国語分野では、国際学部を併設する本学の利点を活かして、「中国語Ⅰ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の言語と、各言語の習熟度に応じた内容で選択科目を設けている。

(2) 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度の3分野から構成されている。人体の構造と機能では、専門科目修得の基盤となる、「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体機能学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、疾病の成り立ちと回復の促進では、「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」や「感染症と看護」、健康支援と社会保障制度では、「医療概論」「関係法規」などの科目を配置している。

(3) 専門科目

「専門科目」は、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域・在宅看護論、看護の統合と実践、臨地実習の9分野から構成されている。1年次は、基礎看護学の「看護学の基礎」や「日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ」、「在宅看護学の基礎」「地域看護学の基礎」「成人看護学の基礎」などを配置した。2年次からはより専門性が求められる「老年看護学」「母性看護学」「小児看護学」「精神看護学」などの各論科目を配置している。そして、4年生前期から後期にかけて、「看護マネジメント論」「国際看護学」「災害看護学」などの看護の統合と実践の科目を配置している。

4 履修の方法

(1) 卒業に必要な単位（表1）

卒業に必要な単位は124単位である。教養科目必修4単位、専門基礎科目必修34単位、専門科目必修75単位、選択科目11単位以上、合計124単位以上を卒業までに取得しなければならない。卒業要件を満たしたものは、学士（看護学）と看護師国家試験受験資格が得られる。

表1 進級・卒業要件

区分	2年次進級要件	3年次進級要件	4年次進級要件	卒業要件	
必修	34単位	78単位	100単位	113単位	124単位
選択	表2 参照			11単位以上	

(2) 進級要件

- i) 1年次から2年次への進級要件
1年次に配当されている必修科目を原則としてすべて修得していること。
- ii) 2年次から3年次への進級要件
2年次までに配当されている必修科目を原則としてすべて修得していること。
- iii) 3年次から4年次への進級要件
3年次までに配当されている必修科目を原則としてすべて修得していること。

(3) 選択科目の履修方法

選択科目は、教養科目38単位、専門基礎科目1単位、専門科目1単位で構成され、年次によって構成配分が定められている（表2）。また卒業要件の選択科目11単位以上には履修規定があり、教養科目の7科目11単位を含まなければならない（表3）。2年次以降専門基礎科目と専門科目が多くなるため、1年次のうちに教養科目から11単位以上の選択科目を履修しておくことを勧める。

表2 選択科目の年次配分

年次	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
教養科目	20科目 30単位	1 科目 1 単位	1 科目 1 単位		26科目 38単位
	4 科目 6 単位				
専門基礎科目			1 科目 1 単位		1 科目 1 単位
専門科目				1 科目 1 単位	1 科目 1 単位
科目 単位 計 ※学年横断分除	20科目 30単位	1 科目 1 単位	2 科目 2 単位	1 科目 1 単位	28科目 40単位

表3 教養科目の年次配分と卒業要件

分野	分野別科目数・単位数の年次配分			卒業要件に含む選択科目数と単位数
	1年次	2年次	3年次	
人間と文化	4科目 8単位			1科目 2単位
社会と制度	2科目 4単位		1科目 1単位	1科目 2単位
自然と科学	6科目 10単位			2科目 4単位
外国語	6科目 6単位	1科目 1単位		2科目 2単位
スポーツと健康	2科目 2単位			1科目 1単位
合計 単位 計 ※学年横断分除	20科目 30単位	1科目 1単位	1科目 1単位	7科目 11単位

5 臨地実習について

(1) 臨地実習のねらい

実習科目は、1年次前期に「基礎看護学実習Ⅰ」、2年次後期に「基礎看護学実習Ⅱ」「地域フィールド実習」、3年次後期に「成人看護学実習」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「地域・在宅看護論実習」、4年次前期に「老年看護学実習」「精神看護学実習」「臨床判断実習」「看護実践マネジメント実習」を配置している。これにより、既習の教養科目の知識と技術を統合し、集大成として看護の対象である人々に看護を提供し、看護学の理解と思考力そして、人間観や自らの看護観を確立すると共に自身の成長も促す。

(2) 看護学実習の履修要件

看護学実習を履修するには、各実習が該当する学年への進級要件を満たしていること、且つ以下の科目の修得をしていることが必要である。

実習科目名	履修要件科目名
基礎看護学実習Ⅱ	看護ヘルスアセスメント、臨床看護技術、看護過程論
地域フィールド実習	地域包括ケアシステム論、在宅看護学の展開Ⅰ、家族看護学
母性看護学実習	母性看護学の展開Ⅱ
小児看護学実習	小児看護学の展開Ⅱ
成人看護学実習	成人看護学の展開Ⅲ
地域・在宅看護学実習	在宅看護学の展開Ⅱ

6 取得可能な資格

看護師国家試験受験資格

医療保健科学部 看護学科 開設授業科目一覧
教養科目

分野	科目	区分	単位数	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
人間と文化	文章表現	講	2	1	前		
	心理学概論	講	2	1	前		
	食生活論	講	2	1	後		
	生活と社会環境	講	2	1	後		
	総合教養講座	講	2	1	前	必修	
社会と制度	日本国憲法	講	2	1	後		
	現代医療と福祉・介護	講	2	1	前		
	キャリア入門	講	1	1	前	必修	
	キャリア形成	講	1	3	前		
自然と科学	生命科学	講	2	1	前		
	情報処理リテラシー	講	1	1	前		
	統計の基礎	講	2	1	後		
	数理・データサイエンス・AI入門	講	1	1	後	必修	
	数理・データサイエンス・AI実践	講	1	1	後		
	物理学	講	2	1	前		
	基礎化学	講	2	1	前		
外国語	英語Ⅰ	演	1	1	前		
	英語Ⅱ	演	1	1	後		
	英語Ⅲ	演	1	2	前		
	中国語Ⅰ	演	1	1	前		
	中国語Ⅱ	演	1	1	後		
	韓国語Ⅰ	演	1	1	前		
	韓国語Ⅱ	演	1	1	後		
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	演	1	1	前		
	生涯スポーツⅡ	演	1	1	後		
総合領域	グローバル・ラングエイジ スタディ研修	演	1	—	—		
	グローバル・エクスペリエンス研修	演	2	—	—		
	グローバル・プラクティカル研修	演	1	—	—		
	海外・国内体験型研修	演	2	—	—		

専門基礎科目

分 野	科 目	区分	単位数	配 当 及 び	年 次 学 期	卒業 必修	備 考
人体の構造と機能	人体構造学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	人体構造学Ⅱ	講	2	1	後	必修	
	人体機能学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	人体機能学Ⅱ	講	2	1	後	必修	
	免疫学	講	1	1	後	必修	
	看護栄養学	講	1	2	前	必修	
疾病の成り立ちと回復の促進	メンタルヘルス	演	1	1	後	必修	
	病理学	講	2	2	前	必修	
	看護病態治療学Ⅰ	講	2	2	前	必修	
	看護病態治療学Ⅱ	講	2	2	前	必修	
	看護病態治療学Ⅲ	講	2	2	前	必修	
	看護病態治療学Ⅳ	講	2	2	後	必修	
	薬理学	講	2	1	後	必修	
	感染症と看護	講	1	2	後	必修	
	臨床検査概論	講	1	2	前	必修	
健康支援と社会保障制度	看護基礎講座	演	1	1	前	必修	
	医療概論	講	1	1	前	必修	
	関係法規	講	1	1	後	必修	
	生涯発達論	講	1	1	後	必修	
	地域包括ケアシステム論	講	1	2	後	必修	
	保健医療福祉行政論	講	1	1	後	必修	
	チーム医療概論	講	1	2	後	必修	
	リハビリテーション論	講	1	2	後	必修	
	医療英語	講	1	2	後	必修	
	看護学英語文献講読	講	1	3	前		

専門科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次 及び学期	卒業 必修	備考
基礎看護学	看護学の基礎	講	2	1 前	必修	
	コミュニケーション論	講	1	1 前	必修	
	看護ヘルスアセスメント	演	1	2 前	必修	
	共通看護援助技術	演	1	1 前	必修	
	日常生活援助技術Ⅰ	演	1	1 後	必修	
	日常生活援助技術Ⅱ	演	1	1 後	必修	
	臨床看護技術	演	1	2 後	必修	
	看護過程論	演	1	2 前	必修	
	看護倫理	講	1	1 後	必修	
	看護教育学	講	1	4 後		
	看護理論	講	1	1 後	必修	
成人看護学	成人看護学の基礎	講	1	1 後	必修	
	成人看護学の展開Ⅰ	講	2	2 前	必修	
	成人看護学の展開Ⅱ	講	2	2 後	必修	
	成人看護学の展開Ⅲ	演	2	3 前	必修	
老年看護学	老年看護学の基礎	講	2	2 前	必修	
	老年看護学の展開Ⅰ	演	1	2 後	必修	
	老年看護学の展開Ⅱ	演	1	3 前	必修	
小児看護学	小児看護学の基礎	講	2	2 前	必修	
	小児看護学の展開Ⅰ	演	1	2 後	必修	
	小児看護学の展開Ⅱ	演	1	3 前	必修	
母性看護学	母性看護学の基礎	講	2	2 前	必修	
	母性看護学の展開Ⅰ	講	2	2 後	必修	
	母性看護学の展開Ⅱ	演	1	3 前	必修	
精神看護学	精神看護学の基礎	講	2	2 前	必修	
	精神看護学の展開Ⅰ	講	2	2 後	必修	
	精神看護学の展開Ⅱ	演	1	3 前	必修	
地域・在宅看護論	在宅看護学の基礎	講	2	1 前	必修	
	地域看護学の基礎	講	1	1 後	必修	
	在宅看護学の展開Ⅰ	演	1	2 後	必修	
	在宅看護学の展開Ⅱ	演	1	3 前	必修	
	家族看護学	講	1	2 前	必修	
看護の統合と実践	看護研究Ⅰ	講	2	3 前	必修	
	看護研究Ⅱ	演	2	4 前・後	必修	
	看護臨床判断	講	1	3 前	必修	
	看護起業論	講	1	3 前	必修	
	看護マネジメント論	演	1	4 前	必修	
	リスクマネジメント論	講	1	3 前	必修	
	国際看護学	講	1	4 後	必修	
	災害看護学	講	1	4 後	必修	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	実	1	1 前	必修	
	基礎看護学実習Ⅱ	実	2	2 後	必修	
	成人看護学実習	実	4	3 後	必修	
	老年看護学実習	実	2	4 前	必修	
	小児看護学実習	実	2	3 後	必修	
	母性看護学実習	実	2	3 後	必修	
	精神看護学実習	実	2	4 前	必修	
	地域・在宅看護論実習	実	2	3 後	必修	
	地域フィールド実習	実	2	2 後	必修	
	臨床判断実習	実	2	4 前	必修	
	看護実践マネジメント実習	実	2	4 前	必修	